

## 営農再開のための放射性物質対策技術の開発 [新規]

【72(0)百万円】

### 対策のポイント

除染が完了した農地において、農業者が安心して営農できるよう、除染後農地の省力的な維持管理や利用のための技術を開発します。

### <背景/課題>

- ・ 除染特別地域において農地の除染が進められていますが、除染完了後から営農が再開されるまでの間、農地を省力的に維持管理するための技術開発が求められています。
- ・ 除染特別地域において、森林や水源からの農地への放射性物質の流入防止技術の開発や放射性セシウムの吸収モデルの構築を行います。

### 政策目標

被災地での本格的な営農再開に貢献

### <主な内容>

#### 1. 除染後農地の省力的維持管理技術の開発

営農再開までの期間の長さ等に応じ、雑草繁茂や土壌流亡の抑制、地力回復に資する除染後農地の省力的維持管理技術を開発します。また、被ばく線量が少ない農作業の方法を開発します。

#### 2. 農地への放射性物質流入防止技術等の開発

今後営農再開が見込まれる除染特別地域を対象として、森林やため池等農地周辺からの農地への放射性物質流入特性を解明するとともに、放射性セシウムの農地への流入を防止し、作物への影響を軽減するためのほ場管理技術を開発します。

#### 3. 植物の特性を利用した新たな放射性物質吸収抑制技術の開発

作物の放射性セシウム吸収低減に貢献する遺伝子を特定するとともに、現行の吸収抑制技術の高度化に資するため、放射性セシウムの吸収モデルを構築します。

（委託費）  
委託先：民間団体等

[お問い合わせ先：農林水産技術会議事務局研究統括官（食料戦略、除染）室  
(03-6744-2214)]

# 営農再開のための放射性物質対策技術の開発

## 背景

これまでに農地の除染技術を開発し、除染の現場に広く普及。



除染が完了した農地において、農業者が安心して営農するためには、除染後農地やその周辺における放射性物質の動態を解明し、除染後農地の省力的な維持管理や利用のための技術の開発が必要。

## 研究内容

### (1) 除染後農地の省力的維持管理技術の開発

農地の除染完了後営農が再開されるまでの間、雑草繁茂や土壌流亡の抑制、地力回復に資する除染後農地の維持管理技術を開発。また、農業者が安心して農業に取り組めるよう、放射線被ばく量がより少ない農作業の方法を提案。



カバークロープ



雑草、  
地力増進？

種類、管理  
方法は？

### (2) 農地への放射性物質流入防止技術等の開発

避難指示区域等において、農地周辺から農地への放射性物質の流入特性を明らかにし、放射性Cs動態予測モデルを開発するとともに、放射性Cs流入を防止し、作物への影響を軽減するための営農再開後におけるほ場管理技術を開発。



森林



ため池

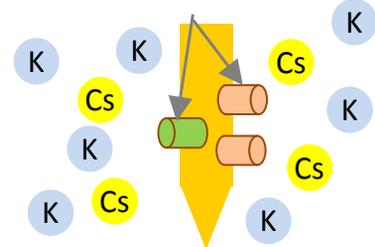


農地

### (3) 植物の特性を利用した新たな放射性物質吸収抑制技術の開発

作物の放射性Cs吸収低減に貢献する遺伝子を特定。また、現行の吸収抑制技術の高度化に資するため、放射性Csの吸収モデルを構築。

輸送体タンパク質



Cs セシウム

K カリウム

植物根

## 期待される成果

除染後農地の省力的維持管理技術や栽培利用技術をマニュアル化し、関係部局、省庁、自治体等に共有することで、本格的な営農再開を促進